

2026年度版



# 早稲田大学 大学院情報生産システム研究科





大学院  
情報生産システム研究科長  
**荒川 雅生**

## IPSに集まりませんか？

早稲田大学大学院情報生産システム研究科(略称：IPS)は、2003年にひびきのにあります北九州学術研究都市に設立されました。早稲田大学の校歌の一節に「集り散じて人は変れど仰ぐは同じき理想の光」とありますように、現在IPSには国内外(22の国や地域を含む)から優秀な学生が集まっており、また卒業生は、国内の主要メーカーはもちろん、海外でのアカデミアとしての活躍も多く、国際色豊かな環境が整っていることを物語っております。

IPSは、情報通信技術全般をカバーする情報アーキテクチャ分野、生産活動に不可欠な領域をカバーする生産システム分野、応用集積システムおよび関連基礎技術を幅広くカバーする集積システム分野の3つの分野で構成されており、早稲田大学の教旨でもある学問の独立の精神のもと、世界へ貢献できる研究に励んでおります。

また、新しい半導体アイランドとして九州で集約が進む半導体産業の人材育成のために、(公財)北九州産業学術推進機構 (FAIS) の呼びかけの下、学研都市内の大学と協力し、半導体についても学べる「カーボAI連携大学院」にも参加し、地域の発展に努めております。

さらに、併設の情報生産システム研究センター (IPSRC) が運営するコンソーシアムにおいてDX人材育成プログラム「AsianDX」を開講しております。このコンソーシアムは地域の方々と大学を結ぶための井戸端会議の場所であると考えております。「もの造り」に関することでしたら、様々な角度でご協力できると考えております。お気軽にご参加いただき、皆様と共に発展していけるよう努力してまいります。

**IPSの教育理念は  
こちらから  
ご確認くださいませ**





## Contents

## 人材の養成に関する目的・その他の教育研究上の目的

IPSでは、高い洞察力と高度な専門知識を活用して複雑化する現代の技術問題を解決し、新しい付加価値を創造しうる研究人材・技術人材の養成を目的としています。IPSの研究領域としては情報アーキテクチャ、生産システム、集積システムの3研究領域があります。IPSでの教育・研究を通し、基礎応用力と専門知識、情報リテラシーと問題発見力、論理的思考力と問題解決力、実践的リーダーシップと国際的コミュニケーション能力を身に着けることが期待されます。また、IPSが拠点を置く北九州では、自動車、ロボット、環境ビジネス等の新しい産業が広がりをみせており、企業との共同研究や国家プロジェクトに参加し研究成果を実際に応用することで、研究・開発の醍醐味を味わうことができます。IPSは北九州の地から世界レベルの研究成果を発信していきます。

研究科長挨拶 01

IPSの目的・コンセプト 02

IPSの特色 03

IPSの3分野 05

情報アーキテクチャ分野 研究紹介 07

生産システム分野 研究紹介 08

集積システム分野 研究紹介 09

情報アーキテクチャ分野 教員紹介 10

生産システム分野 教員紹介 11

集積システム分野 教員紹介 12

在学生の声 13

修了生からのメッセージ 14

カリキュラム・設置科目 15

入試情報 16

学費等／奨学金制度 17

キャンパスライフ・北九州学術研究都市 18

## IPSのコンセプト

— 国際化時代の”モノづくり”を担う高度技術者を北九州から —

# Think Global

**アジア・太平洋地域に開かれた  
新しい”知”の拠点**

経済のグローバル化により、広く世界を見据えた“モノづくり”が求められています。IPSはアジア・太平洋地域に開かれた最先端の教育研究拠点として、国際化時代に求められる高度専門技術者を養成します。

**留学生が多数を占める  
国際性豊かな研究環境**

IPSには、アジアをはじめさまざまな国や地域からの留学生が多数在籍しています。異なる文化や考えをもった人々と交流できるクロスカルチャー環境のなかで、国際的な感覚が自然に身につきます。

**海外の有力大学や  
研究機関・企業との研究交流を推進**

IPSは、海外の有力大学、研究機関、企業との提携や研究交流を積極的にすすめています。

# Act Local

**北九州の”モノづくり”の伝統を  
生かした教育研究**

北九州市には100年を超える“モノづくり”の伝統があり、近年では最先端のシステムLSI産業の育成にも積極的です。IPSは、地域に蓄積された高度な技術やノウハウを生かした特色ある教育研究をすすめています。

**企業との連携により、  
現場に強い高度技術者を育成**

地域の産業界には“モノづくり”に関わる豊富な人材と事例があります。IPSは、これらのノウハウを実践的な教育に生かすとともに、社会人の方が企業と大学院を往復するリカレント教育にも取り組んでいます。

**産学官が一体となって、  
地域の新産業を創出**

IPSは、研究成果を地域にフィードバックし、新産業の創出に貢献しています。

# 早稲田大学 大学院情報生産システム研究科(IPS)の特色

IPS(Graduate School of Information, Production and Systems)は、早稲田大学が北九州学術研究都市に設置する大学院です。研究・教育・国際連携・地域連携を一体として進め、社会と産業の課題解決に貢献できる人材の育成を目的としています。



## 研究 Research

### 世界とつながる研究環境で最先端の知を創出



#### □ 分野横断型の研究体制

IPSの研究は、情報アーキテクチャ、生産システム、集積システムの3つの研究領域を柱としています。これらの分野は相互に密接に連携しており、分野横断型・融合型の研究が可能です。学生は一つの専門を深く掘り下げながら、関連分野の知見を取り入れ、現実社会の複雑な課題に挑みます。また、学内には情報生産システム研究センター(IPSRC)を併設しており、企業や自治体と連携した実践的な研究プロジェクトが数多く行われています。IPSには基礎研究から社会実装までを視野に入れた研究環境が整っています。

#### □ 国際研究交流の中核「IPS海外連携シンポジウム」

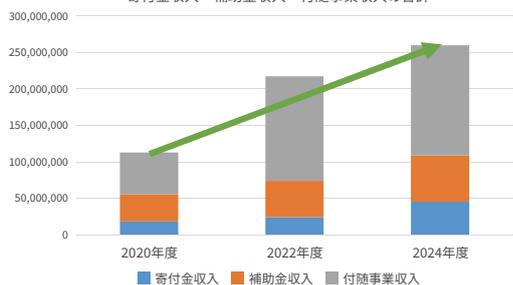
IPSでは、毎年IPS海外連携シンポジウム ISIPS(International Collaboration Symposium on Information, Production and Systems)を開催しています。ISIPSでは、世界各国の研究者が集い、最先端の研究結果が発表・議論されます。ISIPSは単なる国際会議ではなく、新たな国際共同研究の創出、若手研究者・大学院生の国際発信の場の形成、国内外の大学等との研究ネットワーク強化を目的とした、IPSを象徴する研究交流の場です。学生にとって、国際的な研究の最前線を体感し、自身の研究を世界へ発信する貴重な機会となっています。

#### □ 国際舞台で研究成果を発信

IPSでは、多くの学生が国際会議で英語による研究発表に挑戦することを強く推奨しています。研究成果を国際社会に向けて発信する経験を通じて、専門性に加え、国際的なコミュニケーション力や研究者としての視野を養います。また、海外での研究活動を支援する「大学院生等海外派遣助成制度」を活用し、多くの学生が国際学会・国際会議での発表や国際コンソーシアムへの参加、フィールドワークなどに取り組んでいます。IPSは、研究を世界へ展開する機会を積極的に提供しています。

情報生産システム研究センター獲得外部資金\*

\*寄付金収入・補助金収入・付随事業収入の合計



IPS研究最前線



研究室紹介動画

## 教育 Education

### 国際性と実践力を兼ね備えた高度技術者を育てる教育



#### □ 分野を越えて学ぶ融合型カリキュラム

IPSは、情報アーキテクチャ、生産システム、集積システムの3分野から構成され、ハードウェアとソフトウェアの両面にまたがる教育を展開しています。学生は入学後早い段階から研究に取り組み、所属分野で専門性を深めながら、設置された講義科目を分野の枠を越えて幅広く履修することで分野横断的な知識を修得します。

#### □ 英語で学び、世界で活躍する力を養う

IPSでは、英語と日本語の二言語で講義および研究指導を実施しています。留学生と日本人学生が共に学ぶ環境の中で、専門知識に加え、国際的なコミュニケーション能力を身につけます。研究成果の発表や議論を英語で行う経験を通じて、グローバルに活躍できる技術者・研究者としての基盤を形成します。

#### □ 他大学・企業と連携した実践的教育プログラム

北九州学術研究都市に立地する強みを結集し、九州工業大学、北九州市立大学、早稲田大学が連携して教育プログラムを開発しています。大学間の単位互換制度により、各大学が提供する専門科目を履修できるほか、関連企業の第一線で活躍する研究者・技術者を講師として迎えた講義や、演習・実習を重視した教育を行っています。IPSは、自動車・ロボット・AIといった総合技術分野に必要な幅広い知識と実践力を養い、次世代を担う高度専門人材の育成を目指しています。

#### 受賞実績(2020-2025)

##### 主な受賞

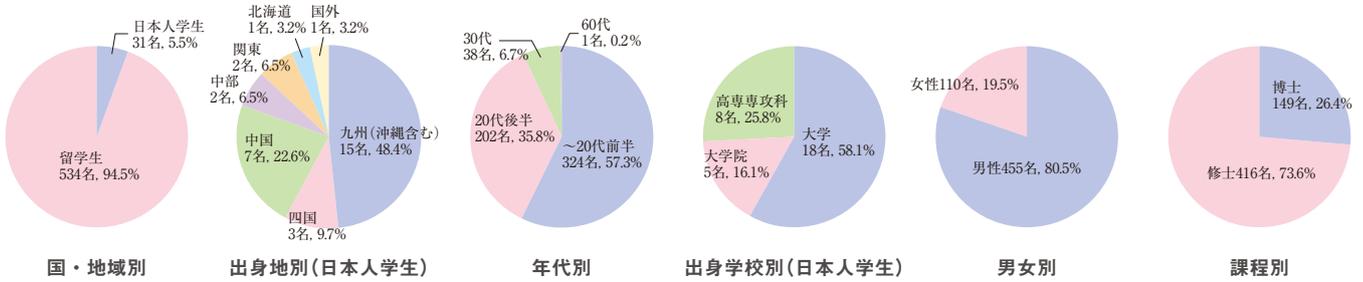
文部科学大臣表彰/JSME賞/JSMEフェロー  
IEEE国際賞/Top 2% Scientists ほか

##### 受賞件数

国内 24件/国際 46件

IPSの在学生構成概要

<2025年11月1日現在>



地域連携 Regional Collaboration

就職 Career Development

産業と研究が集積する環境を生かし、社会とつながる



アジアと産業に開かれた都市・北九州

北九州市は東アジア諸国に近く、長年にわたりそれらの国々と国際交流を育んできた地域です。また、日本有数の工業地帯として培ってきた技術と産業基盤を有し、情報・生産・システム分野の教育研究を展開する拠点として大きな可能性を備えています。早稲田大学は、アジア全体を見通した知の発信拠点を築くことを目的に北九州学術研究都市へ進出しました。この立地を生かし、IPSでは社会や産業と結びついた教育研究を展開しています。

大学・研究機関・企業が集う北九州学術研究都市

北九州学術研究都市は、大学・研究機関・企業が集積し、共同研究や産学連携を推進する研究開発拠点として整備されています。早稲田大学を含む複数の大学・大学院と同一キャンパスが形成され、分野や組織の枠を越えた連携が可能となっています。人と知が集まる環境のもと、学生や研究者が日常的に交流しながら学びを深めることができます。キャンパスには、研究者や学生が気軽に交流できるコミュニケーションスペース「HIBIKINO ODORIVA」が設けられ、大学間の垣根を越えたつながりが生まれています。さらに、学研都市の大学院に在籍する留学生を対象とした奨学金の給付や寮の整備など、支援制度も充実しており、多様な学生が安心して学べる環境が整っています。

産学が協働するコンソーシアムによる共創

IPSは「早稲田大学IPS・北九州コンソーシアム」を通じて、企業・大学・地域が結びつく連携体制を構築しています。本コンソーシアムでは、共同研究や研究開発プロジェクトを継続的に推進するとともに、研究スペースの活用などを通じて、実社会に根ざした教育研究を展開しています。



3大学院 連携教育プログラム  
「カーロボAI連携大学院」



HIBIKINO ODORIVA

早稲田ならではの確かな就職実績



就職に強いIPS

IPSでは例年有力企業による説明会が数多く開催されており、OB訪問や情報交換も活発に行われています。また、IPS独自の合同企業説明会をオンライン形式で開催し、学生が自身の研究分野と親和性の高い企業と直接対話できる機会を設けています。こうした場を通じて、学生は専門性や研究内容を生かしたキャリア形成を進めています。

2027年4月入学者向け就職活動スケジュール

期間	活動内容
2027年4月～2028年2月	準備・情報収集
2027年 8月	インターンシップ
2028年 3月	就職活動開始(就職セミナー、会社説明会等)
2028年 6月	入社試験
2028年10月	入社内定
2029年 4月	入社

日本人修士(修士)の主な就職先(2021年～2025年)

<b>電機・精密</b> ソニー 三菱電機 日立製作所 NEC 富士通 東京エレクトロン ニコン コニカミノルタ ソニーセミコンダクタソリューションズ デンソーデン NEC通信システム 双葉電子工業 東芝エネルギーシステムズ	<b>自動車・輸送機</b> トヨタ自動車 本田技研工業 日産自動車 SUBARU マツダ
<b>情報通信・サービスその他</b> KDDI NTTドコモ 野村総合研究所 NRIネットコム 日本総合研究所 AVILEN セーフィー アルプス技研 コーエーテクモホールディングス オロ 地方公共団体情報システム機構	<b>機械</b> ダイキン工業 サミー 駿河精機
	<b>運輸・物流</b> 東海旅客鉄道 スカイマーク
	<b>銀行</b> みずほ銀行 佐賀銀行
	<b>エネルギー資源</b> ENEOS 出光エンジニアリング
	<b>食品</b> ネスレ日本
	<b>鉄鋼・非鉄</b> 日鉄ステンレス

\*企業名は就職当時の名称です。

# IPSの3分野

IPSは「情報アーキテクチャ」「生産システム」「集積システム」の3つの分野から構成  
また、最先端の技術と経営の知識を取り入れた講義を用意し、大局観を持ちテクノロ

## I メディアから経営工学まで、新たな情報活用をデザインする。 情報アーキテクチャ分野



### 情報アーキテクチャ分野の特徴

ビッグデータ、処理、通信、センサにわたる  
情報工学技術をカバー

情報・AI技術の理論・応用教育と、産学連携を重視した  
研究を軸とした高度技術人材を育成

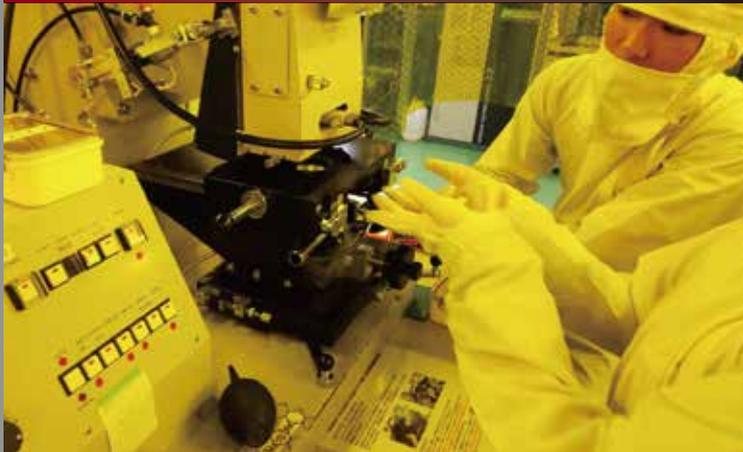
さまざまなバックグラウンドをもつ学生に配慮し、  
幅広いキャリア形成を支援

### 研究領域

●情報・通信モデル ●計算知能 ●言語・メディア情報 ●社会／経営情報  
●ロボティクス・メカトロニクス ●情報センシング

●スマートインダストリー研究室 ●ニューロコンピューティング研究室  
●データ工学研究室 ●イメージメディア研究室 ●バイオ情報センシング研究室  
●用例翻訳・言語処理研究室 ●バイオ・ロボティクス&ヒューマン・メカトロニクス研究室  
●コミュニティ・コンピューティング研究室  
●ネットワークインテリジェンスとセキュリティ研究室  
●ヒューマニティ中心インタラクション研究室

## P 次世代のものづくり技術を通して新しい価値を創造する。 生産システム分野



### 生産システム分野の特徴

開発から材料、組立・製造、計測、制御、診断、物流、  
経営までの生産活動に不可欠な領域をカバー

製造業のグローバル化に対応し、  
アジアや世界で活躍できる研究者・高度技術者を養成

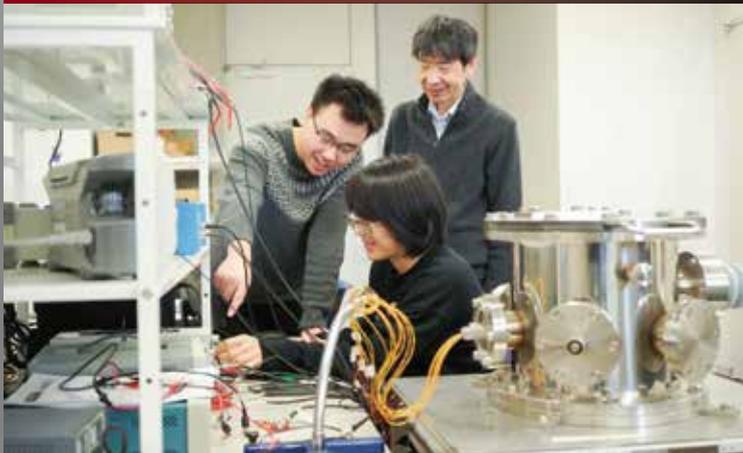
現場に即した実践的な環境で、  
ソフト・ハード両面からの充実した教育・研究を実施

### 研究領域

●機械設計・ロボット ●センサ・先進材料・応用計測  
●システム制御・プロセス制御・エネルギー ●生体計測制御システム  
●プロセス運用監視・設備安全管理 ●自動車用パワートレイン

●設計工学システム研究室 ●移動ロボティクス・プラットフォーム研究室  
●マイクロナノ流体デバイス研究室 ●バイオオプトロニクス研究室  
●機械システム設計研究室 ●生産プロセス工学研究室  
●知能半導体工学研究室 ●半導体デバイス材料工学研究室  
●生体医工学研究室 ●パワートレインシステム研究室

## S 革新的な集積システムとそのための最先端のテクノロジーの創造。 集積システム分野



### 集積システム分野の特徴

応用集積システムおよび関連基礎技術を幅広くカバー

産業界との密な連携を有する教授陣による  
実践的な研究と教育の提供

先端企業からアカデミック領域まで幅広い  
分野でグローバルに活躍する人材を育成

### 研究領域

●高速/低電力半導体 ●アナログ・高周波回路  
●音響・画像処理 ●光集積・テラヘルツ集積回路  
●MEMSセンサー ●システム最適化・検証

●マイクロ電気機械システム研究室 ●画像情報システム研究室  
●発光システム研究室 ●高位検証技術研究室 ●知的音響システム研究室  
●光電子集積システム研究室 ●グリーン集積システム研究室  
●集積システム最適化研究室 ●無線通信回路技術研究室  
●テラヘルツ集積システム研究室

されており、各分野の枠を越えて相互につながり合う研究領域をハード・ソフト両面にわたって広く学ぶことができます。  
 ジーにも明るい専門家を養成します。社会人学生も広く受け入れています。

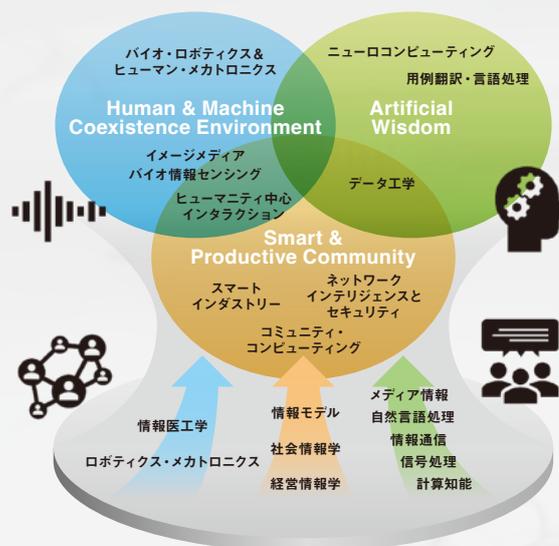
### 複合スキルの教育体制

基礎的知識から最先端応用まで  
 カバーする科目群演習を通して  
 実践力を養成します

- ・ディープラーニング
- ・データサイエンス
- ・自然言語処理
- ・メディア理解・応用
- ・通信・ネットワーク
- ・ヒューマンインタラクション

### Society 5.0を切り拓く 社会に開かれた教育

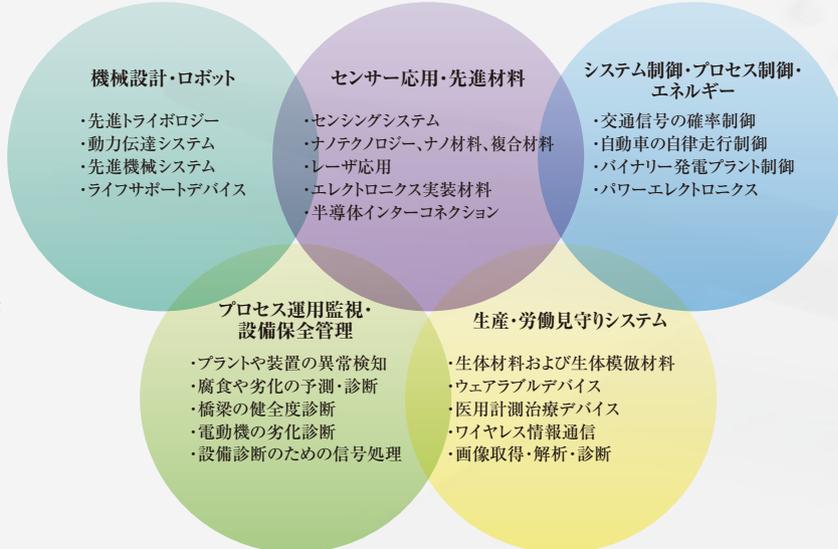
技術力と共に、これからの社会で活躍する  
 ために必要な共創力、俯瞰力の養成を目指  
 します。



### スマート社会をとりまく情報・システム化技術

人・モノ・情報から作り出される安全、安心な社会と快適な環境を創造します。  
 情報アーキテクチャ分野では、これからのスマート社会を支えるさまざまな情報・システム化技術の  
 研究とその応用に取り組んでいます。

### 地域の産業界との連携



### 教育・研究の特色

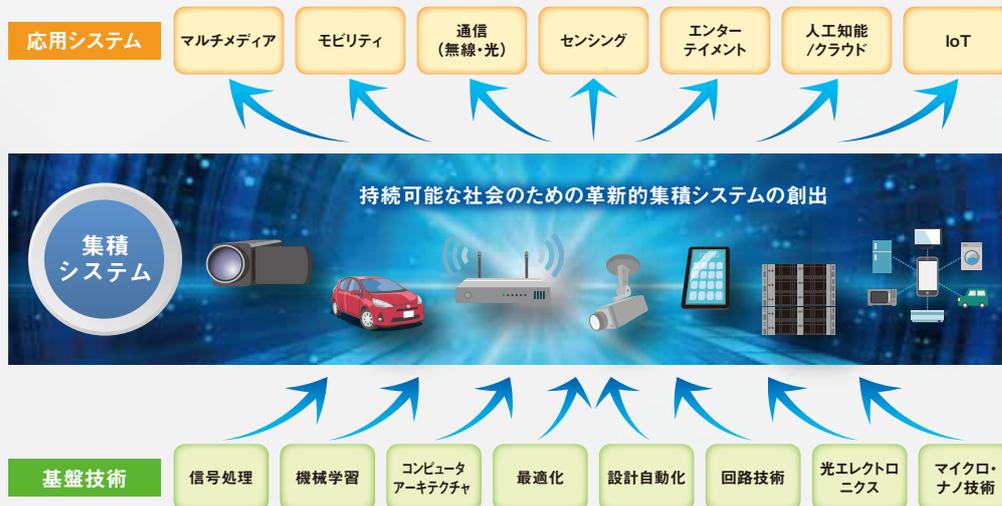
システムの教育を実施  
 ・ハードウェアとソフトウェアの両面  
 ・アルゴリズムやソフトウェアの基礎から応用

SoCの設計教育  
 ・FPGA実装  
 ・実チップの設計/評価  
 ・通信・画像・音声処理システム応用

ハイブリッド多機能集積回路の研究・教育  
 ・MEMSシステム  
 ・光電子融合回路  
 ・テラヘルツ応用システム

### 外部機関や団体との連携

・電機、通信、半導体、自動車関連の産業界や  
 研究機関との共同研究を広く実施  
 ・国内外のトップクラス大学との研究交流



## イメージメディア研究室 (鎌田清一郎研究室)

### 「たかが曲線、されど曲線」、 そして画像処理技術の社会実装

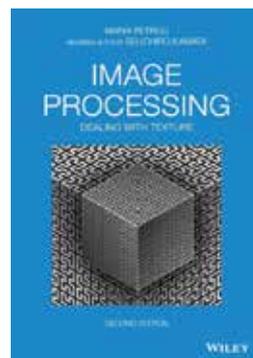


情報アーキテクチャ分野では、メディアから経営工学まで、新たな情報活用がデザインされています。情報センシングから伝送・分析・意思決定までの情報通信技術全般をカバーし、情報・AI技術の理論・応用教育と、産学連携を重視した研究を軸とした高度技術人材を育成しています。また、理工系分野以外からの転入者にも配慮した教育メソッドによる幅広いキャリア形成を支援しています。当分野の教員の研究テーマは、Smart & Productive Communityグループとして、スマートインダストリー、コミュニティ・コンピューティング、ネットワークインテリジェンスとセキュリティ、また、Artificial Wisdomグループとして、ニューロコンピューティング、用例翻訳・言語処理、データ工学、さらに、Human & Machine Coexistence Environmentグループとして、バイオロボティクス & ヒューマン・メカトロニクス、イメージメディア、バイオ情報センシング、光ファイバシステムがあり、情報分野を幅広くカバーしています。各教員は、精力的にこれらの研究に取り組んでいますが、その中で、当研究室は、「イメージ」を中心としたメディア研究を2003年から行っています。

高木貞治著「解析概論」(岩波書店、1961年)という有名な教科書に、曲線のことが書いてあり、「このような曲線は迷惑である」という一文がありました。1本の曲線によって2次元平面、さらに3次元以上の多次元空間を埋め尽くすことができる「空間充填曲線」のことです。G.ベアノ、D.ヒルベルト、G.カントール、W.シェルピンスキーなど、有名な数学者が、1890年頃からベアノ曲線、ヒルベルト曲線、シェルピンスキー曲線など、様々な空間充填曲線に関する論文を発表しました。一世紀以上前に発表した原著論文(英語ではなく、ベアノ曲線はフランス語、ヒルベルト曲線はドイツ語、シェルピンスキー曲線はフランス語で書かれている)を読むと、各数学者が曲線をどのように創り出したか、どのような考えをもっていたかがわかり、とても興味深いです。これらの曲線は、今までにデータ圧縮や画像処理、情報検索など、様々

な応用研究に利用されてきました。当研究室は、40年以上前から「画像処理とパターン認識」をテーマに研究を続けていますが、この空間充填曲線に着目し、独自の画像処理アルゴリズムの開発に取り組んできました。1990年代、画像処理やパターン認識等の研究分野で世界的に有名な、故マリア・ベトロウ氏(インペリアルカレッジ・ロンドン・教授)から曲線に関する共同研究を持ちかけられ、様々な曲線の応用研究に本格的に取り組みました。共同研究の道半ば、彼女は2012年に亡くなりましたが、その後、遺志を継ぐ形で専門書籍「Image Processing: Dealing With Texture」(Wiley, 2021年)を上梓することができました。図は、3Dグラフィックスツールで作ったD.ヒルベルトによる3次元の空間充填曲線です。至るところ微分不可能なTricky(迷惑)な曲線であることがわかつています。

数学が好きな学生は、ぜひ当研究室を訪れてもらいたいです。イメージメディアは、数学が好きで、曲線に関する理論を精力的に研究しているうちに、社会に役立つアイデアが生まれた研究分野でもあります。研究室のキーワードは、「たかが曲線、されど曲線」。数学的に迷惑な曲線でも世の中に役立つ。まさに、曲線をはじめ、数学的概念を使って社会に役立つ技術を生み出す研究室であり続けたいと考えています。





研究紹介

生産システム分野

## 知能半導体工学研究室 (植田研二研究室)

### 薄膜成長技術による 革新的新材料・デバイスの 創製を目指して

知能半導体工学研究室(植田研)は、2022年よりスタートした比較的新しい研究室です。研究室主催者の植田は大阪大学にて博士号(理学)を取得しましたが、博士課程在籍時から現在の早稲田大学大学院情報生産システム研究科(IPS)に至るまでの30年弱の間、薄膜材料・デバイス研究に継続して従事してきました。

我々の研究室では多彩な成膜装置(プラズマ化学気相成長(CVD)装置や分子線エピタキシー(MBE)装置、スパッタ装置)を有しており、多様な材料を薄膜化できる環境にあります。現在の電子デバイスは色々な材料を薄膜化し積層させる事でデバイス化が為されていますが、本研究室でも上記の装置を用いて成膜し、微細加工を行う事で電界効果トランジスタ(FET)や光センサアレイ等様々なデバイス作製を行っております。この様に、我々の研究室ではターゲットとなる材料を薄膜化し、できる限り高品質化した上で新機能・高性能デバイス作製に繋げる、即ち材料合成からデバイス作製まで研究室で一貫して行い革新的デバイス作製に繋げるというのが1つの売りとなります。

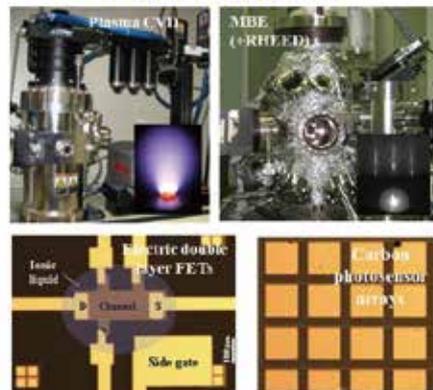
近年、我々の研究室では半導体工学をベースに、ダイヤモンド半導体やグラフェン等の炭素材料を用いた新機能・高機能デバイス作製に力を入れています。本研究室に所属する学生の皆さんは半導体技術の中で特に前工程と言われる部分、即ち、成膜や微細加工技術(リソグラフィやエッチング等のデバイス化技術)に加えて、FETやダイオード等の電子デバイスの電気特性評価を自分の手で行う事ができる為、半導体を中心とした材料・デバイスメーカー等で即戦力となる技術を身に付ける事ができます。

現在2つのテーマを研究室の柱としており、(1) ダイヤモンド半導体を用いた高性能パワーデバイス開発、(2) ダイヤモンド半導体／

グラフェン界面での新機能探索とデバイス応用(特に新規脳機能模倣光センサ開発)に関する研究を行っております。特に、(1)に関しては2024年度から国プロ(NEDO先導研究)にて、Power Diamond Systems (PDS) 社及び九州工業大学との共同研究の形で高性能ダイヤモンド縦型FETの開発を行っており、実用レベルのダイヤモンド縦型パワー FETの開発を行うべく日々研究を進めております。

この様に我々の研究室では薄膜結晶成長や新材料開発・デバイス作製を主体として研究を行っておりますが、もし興味がありましたら是非一度研究室を覗いてみて下さい。我々の研究室では自分の手で新材料・デバイスを作り出したい学生やナノテクに興味のある学生さん等を常時募集しております。是非私達と一緒に研究を行いましょう!

### From material synthesis to device fabrication



当研究室保有の成膜装置(右上、左上)と作製デバイス例(右下、左下)

## 集積システム最適化研究室 (山崎慎太郎研究室)

数学・物理・計算機の連携による、  
人間の思考力の限界を超えた  
高性能構造物の創造を目指す。

集積システム分野では、集積回路や光半導体、MEMSなどの、いわゆる半導体デバイスに関する研究に取り組む研究室や、画像処理・音声信号処理・テラヘルツ波応用に関する研究に取り組む研究室など、「集積システム」をキーワードに様々な領域で最先端の研究を行う研究室が集結しています。

ここでは、集積システム分野の研究室の1つである集積システム最適化研究室(以下、山崎研)について紹介します。山崎研は2022年4月に大学院情報生産システム研究科に設置された研究室です。山崎研では、最適設計の基礎研究ならびに、広い意味での集積システムやその関連周辺分野への応用研究に主軸を置いて研究活動を推進しています。最適設計とは、実世界の設計問題に対して

- 設計変数 - 設計者が決めることのできる設計因子
- 目的関数 - 最大化、あるいは最小化すべき設計対象の評価指標
- 制約条件 - 設計対象が満たすべき条件

を数学的に定めて定式化し、数値計画法やメタヒューリスティクスなどを駆使して、最適(あるいは準最適)な設計解を導出する試みです。図中に示すのは、感度情報に基づく最も単純な部類の最適解探索の様子です。

設計変数の数が少ない、すなわち、設計自由度が小さい最適設計問題については、人間の勘や経験でも最適解やそれに準ずる解を得ることが可能ですが、設計自由度が大きくなると、勘や経験で最適解を得ることは極めて困難になります。例えば、図に示すのは、トポロジー最適化と呼ばれる構造最適設計法を用いて数十万の設計自由度を与えた上で得られた、橋梁・放熱器・電解液流路の最適構造です。いずれのケースでも、生物の形態にも似た極めて複雑な最適構造が得られますが、これらを勘や経験から導き出すことは、多くの人にとって容易ではないでしょう。従来、設計自由度の大きい構造最適化問題を解くのは容易ではなかったのですが、数学を基礎とした計算力学・物理シミュレーションの発展と計算機の高性能化により、

図に示すようなユニークな最適構造が得られるようになってきました。

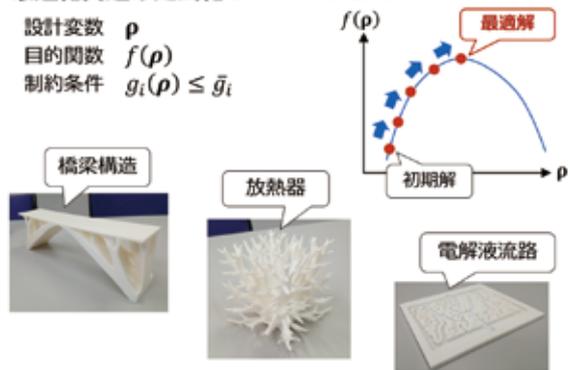
図に示した3つの最適構造が高い性能を発揮することは、物理シミュレーションでは容易に確認できます。一方で、これら複雑な最適構造を実際に製造するのは必ずしも容易ではなく、構造最適設計における大きな課題でした。しかしながら昨年、3Dプリンティング技術の発達に伴い、この課題も解決されようとしています。図に示しているのはPLAと呼ばれるプラスチック樹脂で試作した構造物ですが、3Dプリンティング技術の発展に伴い、使える素材の種類も劇的に増えて来ており、構造最適設計によるものづくりの革新がいよいよ現実のものになるようとしています。

グローバルな競争が常態化している今日、企業でのものづくりは最適であること、少なくとも最適を目指すことが求められており、人間の思考力の限界を超える構造最適設計は強力な武器となり得ます。構造最適設計で世界を変えたいという志ある学生の皆さん、応募をお待ちしています。

### 最適化問題の定式化：

設計変数  $\rho$   
目的関数  $f(\rho)$   
制約条件  $g_i(\rho) \leq \bar{g}_i$

### 最適解探索：



人間の思考力の限界を超えた最適構造  
3Dプリンティングによる現実化

# 教員紹介



教員紹介

## ● 情報アーキテクチャ分野

※下記のQRコードより各研究室紹介動画をご覧ください。



教授 藤村 茂  
(ふじむら・しげる)  
博士(工学)(早稲田大学)

【研究指導名】  
スマートインダストリー研究

【研究分野】  
スマートインダストリー  
デジタルトランスフォーメーション  
生産管理・計画・スケジューリング  
デジタルエコシステム

【メッセージ】  
自らの発想を研究室のメンバーと議論し、互いに高めあうことができる研究室の雰囲気を提供します。新しい研究を自ら推進し研究の楽しさを実感し、世の中で役に立つ研究を実践しましょう。

Web <http://www.smartindustry.jp/>



教授 ルパージュ・イヴ  
博士(工学)(グルノーブル大学)

【研究指導名】  
用例翻訳・言語処理研究

【研究分野】  
機械翻訳  
自然言語処理  
用例知識取得  
相違と類似・類推関係

【メッセージ】  
言語処理についての新しい考え方・手法・課題をスムーズな雰囲気で見聞交換しましょう。

Web <http://lepage-lab.ips.waseda.ac.jp/>



教授 古月 敬之  
(ふるつき・たかゆき)  
博士(情報工学)(九州工業大学)

【研究指導名】  
ニューロコンピューティング研究

【研究分野】  
計算知能工学  
深層学習と応用  
SVMとカーネル関数学習  
システムモデリングと同定  
バイオインフォマティクス

【メッセージ】  
読書が趣味、人工知能に興味がある人、一緒に勉強・研究しましょう。

Web <https://nclab.waseda.jp/nclab/>



教授 松丸 隆文  
(まつまる・たかふみ)  
博士(工学)(早稲田大学)

【研究指導名】  
バイオ・ロボティクス&ヒューマン・メカトロニクス研究

【研究分野】  
ロボティクス・メカトロニクスとその応用  
ヒューマン・ロボット・インタラクション(身体的・情動的)  
パーソナル・ロボット、パートナー・ロボット、マイ・ロボット  
人間共存ロボット、人間共生ロボット  
ロボティック・センシング&コントロール(含. 機械学習)  
人の動作の計測と解析

【メッセージ】  
領域や分野にとらわれない新しい考え方や高い能力をもった人々が集う場で、新しい分野を開拓しながら、一緒に成長しましょう。

Web <https://sem-matsumaru.waseda.jp/>  
<https://matsumaru.waseda.jp/>



教授 岩井原 瑞穂  
(いわいはら・みずほ)  
博士(工学)(九州大学)

【研究指導名】  
データ工学研究

【研究分野】  
データベース質問処理  
Web情報システム  
テキストマイニング  
知識処理  
ソーシャルメディア

【メッセージ】  
山歩きや釣りなどが趣味で、自然と親しむことが好きです。

Web <http://www.iwaihara-lab.org/pub/>



教授 吉江 修  
(よしえ・おさむ)  
工学博士(早稲田大学)

【研究指導名】  
コミュニティ・コンピューティング研究

【研究分野】  
バーチャルコミュニティ  
エージェント  
多人数インタラクション  
eメンテナンス  
合意形成過程  
知識ロジスティクス

【メッセージ】  
食べ歩きとドライブが趣味。  
【実行力のある人、一緒に研究しましょう！】



教授 鎌田 清一郎  
(かまた・せいいちろう)  
博士(工学)(九州工業大学)

【研究指導名】  
イメージメディア研究

【研究分野】  
画像情報処理  
パターン認識  
バイオメトリクス  
画像データベース  
空間充填曲線とフラクタル

【メッセージ】  
イメージをいつも大切にしています。  
BGM音楽を聴くことが好きで、CDは約400枚あり。

Web <https://sem-kamlabo011.waseda.jp/>



教授 伍 軍  
(ご・ぐん)  
博士(国際情報通信学)(早稲田大学)

【研究指導名】  
ネットワークインテリジェンスとセキュリティ研究

【研究分野】  
ネットワークインテリジェンス  
ネットワーク安全  
インテリジェンス安全方法応用とシステム開発

【メッセージ】  
ネットワークのスマート化と安全性をさらに向上させましょう。



教授 亀岡 遵  
(かめおか・じゆん)  
博士(Cornell大学)

【研究指導名】  
バイオ情報センシング研究

【研究分野】  
バイオセンサー  
IOMT  
ウェアラブルセンサー

【メッセージ】  
釣りが大好きです。  
新しいバイオセンサ計測システムを研究しましょう。



准教授 家入 祐也  
(いえいり・ゆうや)  
博士(工学)(早稲田大学)

【研究指導名】  
ヒューマニティ中心インタラクション研究

【研究分野】  
社会情報学  
ヒューマンコンピュータインタラクション  
エージェントシミュレーション  
意思決定支援

【メッセージ】  
食べ歩きと旅行が趣味。  
実社会・フィールドへの興味を大切に、前向きな議論を通じて、一緒に研究成果を世界に発信していきましょう。



◀ 研究に関する相談、教員とコンタクトを取りたい方はこちらへアクセスし、各教員紹介ページ記載のメールアドレスへ直接ご連絡ください。

## ● 生産システム分野

※下記のQRコードより各研究室紹介動画をご覧ください。



教授 **荒川 雅生**  
(あらかわ・まさお)  
博士(工学)(早稲田大学)

【研究指導名】  
設計工学システム研究

【研究分野】  
設計工学  
多目的最適化  
デザイン思考  
故障診断



【メッセージ】  
多目的最適化を中心に研究を広げております。これがどこでもドアのようなもので、様々な分野に入っていきます。毎年新しい発見があり、新しい設計方法を作ることができます。本当に楽しいですよ。



教授 **植田 研二**  
(うへだ・けんじ)  
博士(理学)(大阪大学)

【研究指導名】  
知能半導体工学研究

【研究分野】  
電子機能材料  
薄膜結晶成長  
カーボンエレクトロニクス  
AIエレクトロニクス



【メッセージ】  
私達は薄膜成長技術を駆使する事で、新機能材料を開発する取り組みを行っています。新材料を創り出したい人やナノの世界に興味のある人は是非研究室をのぞいてみて下さい。

Web <https://k-ueda.waseda.jp/>



教授 **橋本 健二**  
(はしもと・けんじ)  
博士(工学)(早稲田大学)

【研究指導名】  
移動ロボティクス・プラットフォーム研究

【研究分野】  
自律移動システム  
人型ロボット  
次世代モビリティ  
システムインテグレーション



【メッセージ】  
社会課題を解決するための実践的なロボットシステムと一緒に開発しましょう。その開発を通して、工学的センスや設計力、問題発見解決能力を養いましょう。

Web <https://hashimoto-lab.jp/>



教授 **志村 考功**  
(しむら・たかよし)  
博士(工学)(名古屋大学)

【研究指導名】  
半導体デバイス材料工学研究

【研究分野】  
半導体デバイスの材料・プロセス工学  
放射光を用いた先端半導体材料材料評価  
IV族半導体のバンドエンジニアリング  
ナノX線回折



【メッセージ】  
日本の半導体産業復活に向けた機運が盛り上がっています。半導体について勉強してみませんか？半導体デバイス材料の面白さと不思議さを楽しみましょう。

Web <https://shimura-lab.waseda.jp/>



教授 **馬渡 和真**  
(まわたり・かずま)  
博士(工学)(東京大学)

【研究指導名】  
マイクロナノ流体デバイス研究

【研究分野】  
マイクロナノ流体デバイス  
ナノ空間溶液化学  
超高感度化学・バイオセンシング  
レーザー分光  
ソフト(制御、信号処理、AI、システム化など)  
上記の社会実装



【メッセージ】  
化学、バイオ、機械、電気などが関係する分野横断領域ですので、いろんな専門分野の方と研究を進めたいと思います。

Web <https://mawatari-lab.waseda.jp/>



教授 **高橋 淳子**  
(たかはし・じゅんこ)  
博士(工学)(東北大学)

【研究指導名】  
生体医工学研究

【研究分野】  
生体医工学  
生体情報解析  
医療機器技術  
放射線力学療法  
光線力学療法



【メッセージ】  
生体を理解して医学を進展させるためには、工学的な考え方が大切です。一緒に、アンメット・メディカルニーズ(いまだ満たされていない医療ニーズ)に取り組みしましょう。



教授 **三宅 丈雄**  
(みやけ・たけお)  
博士(工学)(早稲田大学)

【研究指導名】  
バイオイオントロニクス研究

【研究分野】  
バイオイオントロニクス  
バイオ発電デバイス  
ウェアラブルデバイス  
体内埋め込みデバイス



【メッセージ】  
サッカー、スノーボード、BBQなどのアウトドアが趣味です。ヒトに安全で柔らかいデバイスを共に作りましょう。

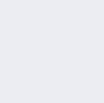
Web <https://miyake.waseda.jp/>



准教授 **山口 恭平**  
(やまぐち・きょうへい)  
博士(工学)(早稲田大学)

【研究指導名】  
パワートレインシステム研究

【研究分野】  
エンジン燃焼  
排出ガス後処理システム  
ハイブリッドシステム  
排出ガス計測  
実路走行時の性能評価



【メッセージ】  
自動車は近年、“電動化”や“自動化”などの技術革新が急速に進んでいます。2030年、2050年に向けて大きく変化する自動車を想像しながら、パワートレインシステムのさらなる低燃費、低排出ガス化を実現するための研究と一緒に取り組みましょう。



教授 **田中 英一郎**  
(たなか・えいいちろう)  
博士(工学)(東京工業大学)

【研究指導名】  
機械システム設計研究

【研究分野】  
機械設計  
機構学  
機械要素学  
福祉工学



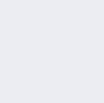
【メッセージ】  
機械のメカニズムの素晴らしさを生かした、世の中に役立つものを創り出していきたいと思っています。機械いじりに興味がある人、一緒に研究しましょう。

Web <https://tanaka.waseda.jp/index.html>



講師 **メーヘシユ・ガーボル**  
博士(工学)(九州大学)

【研究分野】  
有機エレクトロニクス・フォトニクス  
先端材料・デバイス  
微生物電気化学システム  
バクテリアエレクトロニクス



【メッセージ】  
幸運にも私は、数ヶ国の最大かつ主要な研究所で、また製造業においても、経験を積んできました。お互いを尊重しあう雰囲気のもと、ともに研究に励み、成長していきましょう。趣味は合気道、キックボクシング、サイクリング、ハイキング、お茶を飲むことなどです。



教授 **立野 繁之**  
(たての・しげゆき)  
博士(工学)(九州大学)

【研究指導名】  
生産プロセス工学研究

【研究分野】  
生産プロセス工学  
シミュレーション技術  
信頼性工学  
情報生産プロセス

【メッセージ】  
趣味は機械いじり(特にパソコンの組立て)です。人のために役に立つ研究を行っていきたくと思っています。

Web <https://tateno.waseda.jp/>

研究に関する相談、教員とコンタクトを取りたい方はこちらへアクセスし、各教員紹介ページ記載のメールアドレスへ直接ご連絡ください。▶



## ● 集積システム分野

※下記のQRコードより各研究室紹介動画をご覧ください。



教授 **池橋 民雄**  
(いけはし・たみお)  
博士(理学)(東京大学)

【研究指導名】  
マイクロ電気機械システム研究

【研究分野】  
MEMSセンサ  
(重力計、地震計、振動計、  
モード局在化センサ、ジャイロ)  
MEMSアクチュエータ  
MEMS応用システム

【メッセージ】  
センサからアクチュエータまで、様々な分野に応用されているMEMSの研究を一緒にやりませんか？趣味はランニングとドライブです。



教授 **丹沢 徹**  
(たんざわ・とおる)  
博士(工学)(東京大学)

【研究指導名】  
グリーン集積システム研究

【研究分野】  
エネルギー・ハーベスト技術  
半導体メモリシステム  
アナログ回路システム  
電力変換システム

【メッセージ】  
物理的センスで回路動作をイメージし、数学的センスで特性を定量化し、全体最適化でシステムのグリーン化を考えると一緒に楽しみましょう。

Web <https://tanzawa-lab.waseda.jp/>



教授 **池永 剛**  
(いけなが・たけし)  
博士(情報科学)(早稲田大学)

【研究指導名】  
画像情報システム研究

【研究分野】  
動画像圧縮システム  
動画像認識システム  
動画像通信システム  
デジタル信号処理LSI

【メッセージ】  
かつて友人が活躍していたこともあり、ずっと早稲田ラグビーを応援しています。

Web <https://sem-ikenaga.waseda.jp/pageJa.htm>



教授 **山崎 慎太郎**  
(やまさき・しんたろう)  
博士(工学)(京都大学)

【研究指導名】  
集積システム最適化研究

【研究分野】  
最適設計  
集積システム  
モビリティ  
機械学習

【メッセージ】  
企業にて集積デバイス製造の実際を学び、大学にて最適化の研究に取り組んで来ました。集積システムの最適化は社会に様々な革新をもたらす可能性に満ちています。世界を変える研究に共に挑んでみませんか。

Web <https://yamasaki.waseda.jp/index.html>



教授 **磯塚 孝明**  
(いそづか・たかあき)  
博士(工学)(九州大学)

【研究指導名】  
発光システム研究

【研究分野】  
半導体レーザー・発光素子  
光回路シミュレーション  
ナノフォトニクス  
光信号処理

【メッセージ】  
半導体レーザーとその情報通信応用を研究しています。光技術は様々な分野で発展を続ける創造性豊かな研究領域です。「光る」技術を一緒に切り拓いていきましょう。



教授 **吉増 敏彦**  
(よしまさ・としひこ)  
博士(学術)(神戸大学)

【研究指導名】  
無線通信回路技術研究

【研究分野】  
無線通信用高周波IC(RFIC)の回路設計技術  
アナログ回路設計技術  
高周波デバイス評価技術・モデリング

【メッセージ】  
無線通信機器は私たちの生活・仕事の必需品となりました。(携帯電話、カーナビ、衛星放送など)今後も私たちの生活をさらに豊かにしていくため、無線通信用高周波ICの研究を一緒にしませんか？



教授 **木村 晋二**  
(きむら・しんじ)  
工学博士(京都大学)

【研究指導名】  
高位検証技術研究

【研究分野】  
高位設計と検証  
応用指向の高位合成  
ハードウェア/ソフトウェア協調設計  
テスト容易化設計

【メッセージ】  
趣味は読書で、特にミステリが好きです。好きな言葉は親切、丁寧、思いやりです。



准教授 **芹田 和則**  
(せりた・かずのり)  
博士(工学)(大阪大学)

【研究指導名】  
テラヘルツ集積システム研究

【研究分野】  
テラヘルツ  
非線形光学  
電磁界解析  
メタマテリアル

【メッセージ】  
未開拓の電磁波領域にあるテラヘルツ波には、未来の通信・センシング技術の可能性が広がっています。一緒にこの分野を開拓してみませんか？



Web <https://shinji-kimura.waseda.jp/index-j.html>



教授 **牧野 昭二**  
(まきの・しょうじ)  
博士(工学)(東北大学)

【研究指導名】  
知的音響システム研究

【研究分野】  
ブライント音源分離  
音声強調  
音環境の認識と理解  
音響信号処理

【メッセージ】  
研究成果を世界に発信し、世界中の仲間と切磋琢磨しながら、研究の楽しさを実感しましょう。趣味は散歩、旅行、スキー、ダイビングです。



● 分野共通  
客員教授 **藤野 直明**  
(ふじの・なおあき)

【研究分野】  
産業政策 オペレーションズマネジメント  
サプライチェーンマネジメント  
フィジカルインターネット  
DX(デジタルトランスフォーメーション)

【メッセージ】  
情報技術の発展と新興国の高い経済成長率とが経営戦略に大きなインパクトを与えています。多様なシステムが相互に連結するシステムオブシステムズの時代が到来し、産業構造、ビジネスモデル、イノベーションモデルの変革が求められています。起業家、経営者、コンサルタントを志向する方、広く科学技術と社会を俯瞰したい方、是非、一緒に議論しましょう。

Web <https://www.nri.com/jp/people/1st/iis/fujino>



教授 **高畑 清人**  
(たかはた・きよと)  
博士(工学)(東京工業大学)

【研究指導名】  
光電子集積システム研究

【研究分野】  
光電子集積回路  
半導体光デバイス  
シリコンフォトニクス  
マイクロ波フォトニクス

【メッセージ】  
フォトニクスとエレクトロニクスを融合する光電子集積技術は超スマート社会を支える重要な技術です。一緒に、将来の社会に役立つ新しい光電子集積デバイス・システムの研究に取り組みましょう。趣味はスポーツと旅行です。



◀ 研究に関する相談、教員とコンタクトを取りたい方はこちらへアクセスし、各教員紹介ページ記載のメールアドレスへ直接ご連絡ください。



学生メッセージ

# 在学生の声



富金原 凜子 FUKIMBARA, Riko



早稲田大学卒

2026年4月修士課程入学

バイオ・ロボティクス&ヒューマン・メカトロニクス研究室(松丸研究室)

IPSには様々な国籍の学生が在籍し、幅広い研究に取り組んでいます。私は、東京の西早稲田キャンパスで3年間学んだ後に北九州キャンパスの研究室に配属されるIPSコースの学部4年生です。東京での学びや経験を活かし、現在はIPSのバイオ・ロボティクス&ヒューマン・メカトロニクス研究室で、約10年間の合唱経験を基にして、歌唱の音声解析と画像解析の研究を行っています。研究室では週次会議として意見交換や情報共有の場が設けられ、他の研究室のメンバーの研究内容は勿論のこと、論文作成やプレゼンテーション作成などからも、たくさんのことを学んでいます。そして北九州での日々の生活ではIPSで出会った方々の温かさに支えられていると感じます。学内外問わず様々な成長の場を提案して下さる指導教員の先生方、活発で社交的な修士・博士の先輩方、親身になって学生に対応して下さるIPSの事務の方々のお陰で充実した学生生活を過ごせています。日本で多くの留学生に囲まれて研究できるIPSは非常に刺激的で、自分自身の視野や見聞を広げてくれる魅力的な環境です。



シン ドンハ SHIN, Dongha



嘉泉中学校卒

2025年4月博士後期課程入学

データ工学研究室(岩井原研究室)

IPSは、情報・生産・システム分野における先端研究において特筆すべき環境を備えています。私はデータ工学研究室に所属し、自然言語生成、大規模言語モデル、LLMを活用した教育手法など、技術と学びの将来像を急速に形作りつつある分野の研究に取り組んでいます。IPSで修士課程を修了し、現在は博士課程に在籍する中で、本研究科ならではの強みを実感してきました。中でも多様な国際コミュニティの存在は、IPSならではの魅力です。この環境は私の視野を広げ、研究を豊かにしてくれています。また、専門分野の異なる多様な研究室があり、学生はそれぞれの関心に応じた研究に取り組むことができます。私の研究室では、研究成果を積極的に共有し議論を重ねることで、個々の研究テーマを超えて理解を深めています。IPSは、学生が学問的にも社会的にも成長できるよう後押ししてくれます。

苧坂 浩貴 OSAKA, Hiroki



香川高等専門学校卒

2025年4月修士課程入学

イメージメディア研究室(鎌田研究室)

IPSは、多彩な研究分野と最先端の環境を備え、異なる背景を持つ仲間と共に学び合いながら、新たな視点と刺激を得て成長できる大学院です。豊富な研究室の選択肢が用意されており、自分の関心や将来の目標に応じて研究テーマを探究することが可能です。

イメージメディア研究室では、空間充填曲線やフラクタルを活用し、画像情報処理やパターン認識を基盤とした研究を展開しています。基礎理論から応用、さらには社会実装に至るまで幅広く取り組んでおり、方法論の構築に加えて実社会での実装に携わる機会もあるため、インターンシップと同等の実践的な経験を積むことができます。また、医用画像やリモートセンシング画像の解析、バイオメトリクスに関する研究など多様なテーマを網羅しており、自分の興味に合った研究対象に出会うことができるでしょう。

IPSでの学びは、専門性を磨くだけでなく、社会に貢献する技術を生み出す喜びを実感できる貴重な経験となります。



チョウ イシン ZHAO, Yixin



電子科技大学卒

2024年9月修士課程入学

テラヘルツ集積システム研究室(芹田研究室)

IPSは多様性に富んだ大学院で、各教授の研究室がそれぞれ特定の最先端研究に取り組んでおり、学生はその多様な研究室の中から所属先を自由に選ぶことができます。同時に、IPSには研究交流や学びの機会も数多くあります。IPSが毎年主催する国際学会では、世界中の研究者と接点を持つことができ、学術交流の機会を広げることができます。さらに、日本語学習の課外講座や文化交流活動も用意されており、研究以外でも日本文化や日常生活を深く知ることができ、異文化の多様な楽しさに触れることで経験もいっそう豊かになります。私の研究室は最先端のテラヘルツ光学を扱い、センシング、イメージング、通信への応用拡大に加え、より小型で高集積なテラヘルツデバイスの開発に注力しています。これは非常に将来性が高く、私たちの生活を大きく変える可能性を持つ分野だと考えています。あなたもIPSで情熱をかき立てる研究グループに出会えることを願っています！

グエン ミンフエン NGUYEN, Minh Huyen



ベトナム国家大学卒

2024年4月修士課程入学

マイクロナノ流体デバイス研究室(馬渡研究室)

IPSは、先端技術を探究したい学生のために、活気のある素晴らしい研究環境を提供しています。学際的で国際色豊かな環境が、協働とイノベーションを促す雰囲気を育み、多様な背景を持つ仲間と共に研究に取り組むことができます。マイクロナノ流体デバイス研究室では、重要な化学・生物情報へのアクセスという課題の解決に向けて、センシング、情報技術、IoTを統合した新しいマイクロナノ流体デバイスを、社会実装を目指して開発しています。定期的なゼミを通じて、学会発表や将来のキャリアに必要なコミュニケーション力も養われます。さらに、学生は国内外の活発な共同研究を通じて多様なプロジェクトに触れ、視野を広げ、世界の科学の発展に貢献しています。



シャ カナン XIE, Jianan



四川農業大学卒

2024年9月博士後期課程入学

移動ロボティクス・プラットフォーム研究室(橋本研究室)

IPSには、最先端の研究施設や優れた教授陣が集まった最高の教育環境が整っています。研究分野の選択肢も幅広く、各自の関心に応じたテーマを自由に選択することができます。移動ロボティクス・プラットフォーム研究室では、人間や生物の能力を超える移動ロボットの開発を目指しています。定例ゼミのほか、国際会議にも積極的に参加するなど、世界各国の研究者の方々との交流も盛んです。実用的なロボットシステムの開発を通じて、一緒に社会的課題の解決を目指しましょう。夢が実現する豊かな人生に向けて。

# 修了生からのメッセージ



水口 侑衣子 MIZUGUCHI, Yuiko

2025年3月修士課程修了

**就業先** 株式会社ニコン

情報生産システム研究科には、数多くの留学生在籍しており、私の研究室でも学生の約8割が留学生でした。留学生と関わることで、多様な視点を理解することの重要性を学びました。この経験を通じて、異なる文化や価値観を尊重しながら協力する姿勢を身に付けることができました。また、留学生とのコミュニケーションは主に英語で行われるため、英語力の向上だけでなく、言語の重要性も実感しました。それらの結果、世界に目を向け、国際的な視野を広げることができました。さらに、研究環境が非常に整っており、最新の設備と充実したサポート体制のもとで様々な実験に取り組む機会に恵まれました。これにより、研究が深まり、技術の習得のみならず、新しい発見に結びつきました。情報生産システム研究科は、英語を活かしながら研究を進めたいと考えている方に最適な環境だと思います。



二宮 利紀 NINOMIYA, Toshinori

2024年3月修士課程修了

**就業先** ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社  
モバイルシステム事業部

今に生きているIPSでの学びは、新しい知識や視点を積極的に取り入れる姿勢です。IPSは高度な専門知識を学ぶ場であると同時に、その際立つ特徴であるグローバルな環境を経験できる貴重な場でした。入学当初は、異なるバックグラウンドを持つ人々との英語での会話に不安やためらいがありましたが、ゼミや講義で議論を重ねる経験を通して、新たな環境に適応することができ、今ではあの環境に飛び込んでよかったなと感じています。また、研究は周りを巻き込んで進めることが重要であり、先生方や研究室の仲間に見・ノウハウを共有してもらうことが非常に大切です。この点も含めて、新たな知見を積極的に取り入れようとする姿勢は、様々な方と共働ることが重要である現在の業務遂行にも大きく役立っていると感じています。このように、IPSでの学び・経験は、単に学術的な成長にとどまらず、異文化理解や語学も含めた共働への資質能力向上の機会となり、今後の人生やキャリアにおいても大きな財産になると確信しています。



周 惟廉 ZHOU, Weilian

2024年3月学位取得(博士)

**就業先** 香港理工大学  
博士研究員

IPSで過ごした時間は、学問的な成長だけでなく個人としての変革の旅でもありました。私が学んだ最も貴重なことは、誠実さと責任感と共感力を備えた、より優れた人物になる方法でした。研究を通じて、私は孤独や挫折に直面しても、粘り強さをもって挑戦すること、そして目標に向かって努力し続けることの大切さを発見しました。

有意義な人間関係を築く方法を学ぶことも同様に重要でした。仲間やアドバイスをくれる方々、そして他の学生とのコミュニケーションを通じて、尊敬、協力、責任の大切さを学びました。こうした交流を通じて、研究だけでなく周囲の人々に対する責任についての理解が深まりました。IPSでの学びは今も私を支え、目的意識と責任を持って前向きに生きる助けとなっています。

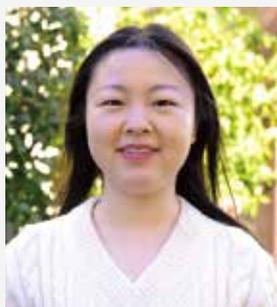


FAM, Rashel Putraruddy Scala

2023年10月学位取得(博士)

**就業先** 本田技研工業株式会社  
モビリティシステムソリューション開発部

IPS在学中は、世界中から集まった多数の留學生とともに、本当に多様で活気ある学習環境を体験する機会に恵まれました。多岐にわたるカリキュラムは、学術界だけでなく、より広い産業界の課題に取り組むためのツールを与えてくれました。用例翻訳・言語処理研究室での経験を通して、自然言語処理分野の現在の問題に対する実践的な解決策の創出に貢献することができました。また、世界的に著名な研究機関の研究者たちと協働する貴重な機会も得られました。先生方や事務スタッフのみならずの継続的なサポートとご指導のおかげで、私は学問的にも職業的にも成長することができました。

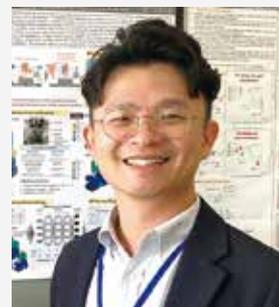


方 梦初 FANG, Mengchu

2023年9月学位取得(博士)

**就業先** ルネサスエレクトロニクス株式会社  
基盤技術インフラIP開発統括部

私は無線通信回路技術研究室に所属していて、アナログ高周波集積回路の設計、その中でも高性能電圧制御発振器設計技術の研究を行っていました。問題の発見から始まり、一連の研究の流れで思考力、問題解決力、そして成果を分かりやすく人に伝える力などを鍛えることができました。現在、会社では、大学院での研究内容の延長線上にあるクロックIPの設計開発に従事しております。設計開発業務では、大学での研究と同様に、問題点の洗い出しから始まり、解決策を考え、チームメンバーと意見交換しながら回路の設計を進めていく必要があります。在学中に学んだ回路設計の基礎知識や研究で得られた経験を生かし、日々の業務に取り組んでおります。また、在学中に学会や学術展示会に出席できるチャンスが多く、さまざまな方とお話しさせていただくことができ、とても勉強になりました。そのおかげで、現在でも目の前の仕事だけにとらわれずに、広く視野を持つことを意識できるようになっています。



莊 俊融 ZHUANG, Jyun-Rong

2020年6月学位取得(博士)

**就業先** 国立中興大学機械工学系  
副教授

早稲田IPSでの時間は私にとって大きな転機となりました。高度な授業と共同研究環境を通じて、私は前提に疑問を持ち、問題に体系的に取り組み、革新的な解決策を生み出すことを学びました。先生方や学生との様々な交流を通じて視野を広げ、グローバルに思考するようになりました。また、多様なプロジェクトを経験することでコミュニケーションとリーダーシップのスキルを磨きました。これらは現在の仕事に非常に役立っています。身につけた批判的思考力と学際的な方法論は、現在も私の研究者としての姿勢を形作り、複雑な課題にも自信を持って取り組む力となっています。私は、生涯にわたる学習への情熱の基礎となった指導とサポートを受けられたことに感謝しています。振り返ってみると、これらの経験が適応力と忍耐力を育み、それが今のあらゆる挑戦において私を導く力となっていることに気づきます。



# カリキュラム・設置科目 (2027年度予定)

自身の専門のみならず、分野の枠組みを越えた知識と技術を幅広く習得することができます。同時に、理工系とは異なるバックグラウンドを持つ学生にとっても、研究活動へスムーズに移行できるよう配慮されたカリキュラムを実現しています。

※博士後期課程では修得すべき単位数は設けていませんが、指導教員の了解のもとで、本研究科の授業科目および他 研究科授業科目を受講し学問領域を広げることが可能です。

## 修士課程入学から修了まで

修士課程の修了要件は、大学院修士課程に2年以上在学し、授業科目について所定の単位を修得し、修士論文の審査および試験に合格することです。入学後の半年間は研究室に仮配属とします。その後修了するまでの1年半の間は、研究室に本配属の上で修士論文を作成します。研究室配属は、希望する研究室内の指導教員と面談の上、仮配属を経て本配属に進みます。なお仮配属後に、研究室を変更して本配属に進むことは可能です。



## 科目修得条件および修了要件

科目区分	入学1年後	修了要件	
授業科目	基礎講義科目	20単位以上 (基礎講義科目は4単位まで)	
	専門講義科目		
	実験科目		
	特論(必修)		2単位以上
	演習(必修)		8単位以上
合計	22単位以上	30単位以上	
修士論文(必修・単位なし)		合格判定	

※基礎講義科目は、4単位を超えて履修しても修了必要単位数として認められません。 ※各判定時までに必要な単位数です。(判定毎に新たに必要となる単位数ではありません。)

下記設置科目は変更になる場合があります。

## 基礎講義科目

春学期2単位	秋学期2単位
<ul style="list-style-type: none"> <li>応用統計データ処理</li> <li>データ構造とアルゴリズム</li> <li>ネットワークセキュリティ</li> <li>アナログCMOS回路</li> <li>機構学</li> <li>基礎IOMT</li> <li>半導体材料・デバイスの評価技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最適化技術とその応用</li> <li>社会システム工学</li> <li>制御処理論</li> <li>デジタル信号処理</li> <li>微生物エネルギー変換・センシングシステム</li> <li>固体物理学</li> </ul>

## 専門講義科目

情報アーキテクチャ分野	生産システム分野	集積システム分野	共通分野
<ul style="list-style-type: none"> <li>自然言語処理</li> <li>画像情報処理</li> <li>ニューラルネットワーク</li> <li>機械翻訳技術</li> <li>生産財マーケティング(春クォーター)</li> <li>集合知論(夏クォーター)</li> <li>スケジューリングアルゴリズム</li> <li>バイオセンサー工学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車工学</li> <li>モデリングと制御</li> <li>バイオエレクトロニクス</li> <li>自律移動ロボット概論</li> <li>信頼性工学</li> <li>計測分析デバイス工学</li> <li>多目的意思決定と応用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マイクロプロセッサ</li> <li>光電子集積回路</li> <li>伝送回路</li> <li>システムLSIアーキテクチャ</li> <li>MEMSデバイス工学</li> <li>半導体メモリ工学</li> <li>レーザー工学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営戦略としてのオペレーションマネジメント(春)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>生体工学</li> <li>基礎バイオシステム</li> <li>バイオインフォマティクス</li> <li>情報組織化論</li> <li>データベース</li> <li>社会・情報デザイン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バイオマイクロマシン</li> <li>情報管理(秋クォーター)</li> <li>ヒューリスティックサーチ設計と応用</li> <li>マイクロナノ流体工学</li> <li>医療機器工学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集積システム実装概論</li> <li>高速・高周波LSI設計</li> <li>システムLSI設計</li> <li>映像信号処理</li> <li>半導体デバイス工学</li> <li>テスト容易化設計</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営戦略としてのオペレーションマネジメント(秋)</li> </ul>

●カーロポAI連携大学院コース科目 ★修了要件の単位に含まれません。 ◆1単位科目

## 実験科目

生産システム分野
秋学期2単位 生産システム実験

## 特論

情報アーキテクチャ分野	生産システム分野	集積システム分野
<ul style="list-style-type: none"> <li>ロボティクス・メカトロニクス特論</li> <li>ニューロンコンピューティング特論</li> <li>スマートインダストリー特論</li> <li>マルチメディア特論</li> <li>コミュニケーションコンピューティング特論</li> <li>用例翻訳・言語処理特論</li> <li>データ工学特論</li> <li>ヒューマン中心インタラクション特論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マイクロナノ流体デバイス特論</li> <li>バイオエレクトロニクス特論</li> <li>生体医学特論</li> <li>移動ロボティクス・プラットフォーム特論</li> <li>半導体デバイス材料工学特論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>画像情報システム特論</li> <li>知的音響システム特論</li> <li>テラヘルツ集積システム特論</li> <li>発光システム特論</li> <li>集積システム最適化特論</li> <li>無線通信回路技術特論</li> <li>高圧検証技術特論</li> <li>グリーン集積システム特論</li> <li>光電子集積システム特論</li> <li>集積システム最適化演習A,B,C,D</li> <li>無線通信回路技術演習A,B,C,D</li> </ul>

## 演習

情報アーキテクチャ分野	生産システム分野	集積システム分野
A(秋学期2単位)、B(春学期4単位)、C(春学期2単位)、D(秋学期2単位)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>スマートインダストリー演習A,B,C,D</li> <li>ニューロンコンピューティング演習A,B,C,D</li> <li>データベース演習A,B,C,D</li> <li>イメージメディア演習A,B,C,D</li> <li>バイオ情報センシング演習A,B,C,D</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計工学システム演習A,B,C,D</li> <li>移動ロボティクス・プラットフォーム演習A,B,C,D</li> <li>マイクロナノ流体デバイス演習A,B,C,D</li> <li>バイオエレクトロニクス演習A,B,C,D</li> <li>半導体デバイス材料工学演習A,B,C,D</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マイクロ電気機械システム演習A,B,C,D</li> <li>画像情報システム演習A,B,C,D</li> <li>発光システム演習A,B,C,D</li> <li>高圧検証技術演習A,B,C,D</li> <li>知的音響システム演習A,B,C,D</li> <li>テラヘルツ集積システム演習A,B,C,D</li> <li>光電子集積システム演習A,B,C,D</li> <li>グリーン集積システム演習A,B,C,D</li> <li>集積システム最適化演習A,B,C,D</li> <li>無線通信回路技術演習A,B,C,D</li> </ul>

※特論、演習の講義要項は、Webシラバス、科目登録画面から参照できます。



# 入試情報

2027年4月および9月入学用



入学試験情報

詳細は入試要項で確認してください。入試要項および出願書類はIPSウェブサイト「入学試験情報」ページよりダウンロードできます。

## IPSの課程・学位

専攻・課程	入学定員	収容定員	入学時期	学位
情報生産システム工学専攻 修士課程	200	400	4月・9月	修士(工学)
情報生産システム工学専攻 博士後期課程	20	60	4月・9月	博士(工学)

○募集分野／情報アーキテクチャ分野、生産システム分野、集積システム分野 ○募集人数／(4月・9月入学の合計) 修士課程／200名、博士後期課程／20名

## 入試日程

[2027年4月入学]

	募集区分	募集課程	出願期間	1次選考結果発表	2次選考 (オンライン面接実施)	最終合格発表	第1次入学手続	第2次入学手続
7月実施入試	推薦(国内・海外協定校 (F/Gコース含む)) 一般 社会人	修士課程 博士後期課程	2026年5月	2026年6月	2026年7月	2026年7月	2026年10月	2027年2月
11月実施入試	推薦(国内・海外協定校 (F/Gコース含む)) 一般 社会人	修士課程 博士後期課程	2026年9月	2026年10月	2026年11月	2026年11月	2026年12月	

[2027年9月入学]

	募集区分	募集課程	出願期間	1次選考結果発表	2次選考 (オンライン面接実施)	最終合格発表	第1次入学手続	第2次入学手続
2月実施入試 (海外協定校のみ)	推薦(海外協定校 (F/Gコース含む))	修士課程 博士後期課程	2026年12月	2027年1月	2027年2月	2027年2月	2027年3月	2027年8月
5月実施入試	推薦(海外協定校 (F/Gコース含む)) 一般 社会人	修士課程 博士後期課程	2027年4月	2027年5月	2027年5月	2027年5月	2027年6月	

## 入試区分ごとの個別条件

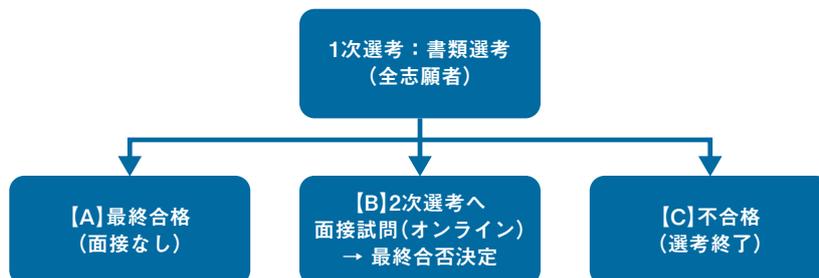
IPSでは3つの入試区分を設け、専門知識の他、学習意欲と問題意識を重視して可否を判定します。

入試区分	個別条件		主な提出書類
	修士課程	博士後期課程	
一般入試	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究計画書</li> <li>卒論または修論報告書</li> <li>成績証明書</li> <li>英語能力証明書</li> </ul>
推薦入試※ (国内協定校・ 海外協定校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文指導教員等、本人の学力を評価できる方の推薦があること。</li> <li>学業成績が優れていること。</li> <li>※具体的な成績基準は設けていません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>修士論文指導教員等、本人の学力を評価できる方の推薦があること。</li> <li>学業成績が優れていること。</li> <li>※具体的な成績基準は設けていません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究計画書</li> <li>卒論または修論報告書</li> <li>成績証明書</li> <li>英語能力証明書</li> </ul>
社会人入試	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業、官公庁、教育機関等に在職している者、または在職していた者。</li> <li>業務上特筆すべき業績を有する者。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業、官公庁、教育機関等に在職している者、または在職していた者。</li> <li>業務上特筆すべき業績を有する者。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究計画書</li> <li>業績報告書</li> <li>成績証明書</li> <li>英語能力証明書</li> </ul>

※本研究科との協定に基づき、所属大学等から正式に推薦された方が出願できる入試制度です。

## 選考方法

入試の区分や出願課程および国内出願・国外出願に関わらず、すべての志願者に対し、以下のとおり選考を行います。



▲ 入試に関するお問い合わせは、こちらのQRコードから

# 学費等

(2027年度入学)



学費

## 修士課程

(単位：円)

年度	納入期	入学金	学費・諸会費			合計
			授業料	実験演習料	学生健康増進互助会費	
第1学年	入学時	300,000	581,000	25,000	1,500	907,500
	第2期	-	581,000	25,000	1,500	607,500
	計	300,000	1,162,000	50,000	3,000	1,515,000
第2学年	第1期	-	731,000	25,000	1,500	757,500
	第2期	-	731,000	25,000	1,500	757,500
	計	-	1,462,000	50,000	3,000	1,515,000

## 博士後期課程

(単位：円)

年度	納入期	入学金	学費・諸会費			合計
			授業料	実験演習料	学生健康増進互助会費	
第1学年	入学時	200,000	353,500	25,000	1,500	580,000
	第2期	-	353,500	25,000	1,500	380,000
	計	200,000	707,000	50,000	3,000	960,000
第2学年	第1期	-	453,500	25,000	1,500	480,000
	第2期	-	453,500	25,000	1,500	480,000
	計	-	907,000	50,000	3,000	960,000
第3学年	第1期	-	453,500	25,000	1,500	480,000
	第2期	-	453,500	25,000	1,500	480,000
	計	-	907,000	50,000	3,000	960,000

※他大学出身の修士課程正規入学者の方は、最終学年・最終学期に校友会費40,000円が必要となります(修了後10年分)。  
 本学学部出身者・編入学・一貫制博士課程・博士後期課程・ダブルディグリー・科目等履修生・非正規生は納入の対象外となります。

# 奨学金制度



奨学金

## 奨学金制度で、留学生にも安心な研究生生活を

IPSでは、入学後の学生の大学生活をサポートするため、本学独自の様々な「学内奨学金」をはじめ、国や民間団体の「学外奨学金」など充実した奨学金を整えています。特にIPSで学ぶ留学生には、財団法人北九州産業学術推進機構(FAIS)による「北九州学術研究都市奨学金」、北九州国際交流協会による「関原大連市留学生奨学金」などIPSならではの奨学金が充実しています。以下は、2025年度IPS在籍学生の受給実績です。これらを含め詳細については、入学後にIPSスクエアに掲載される情報を参考にしてください。

## 2025年度 奨学金受給実績一覧 ※下記の他、学生が直接応募できる財団等の公募奨学金も多数あります。

※-：募集対象外

	奨学金名称	貸与	無 有	支給額		受給期間	受給者数		
				修士	博士		修士	博士	
日本人 学生対象	日本学生 支援機構	日本学生支援機構大学院第一種奨学金	貸与	無	¥50,000～¥122,000/月		1～3年	3	1
		日本学生支援機構第二種奨学金	貸与	有	¥50,000～¥150,000/月		1～3年	0	1
		日本学生支援機構入学時特別増額貸与奨学金	貸与	有	¥100,000～¥500,000/一時金		入学時一時金	0	0
	学内奨学金	小野梓記念奨学金	給付	-	¥400,000/年	-	1年	3	-
		校友会給付奨学金	給付	-	¥400,000/年	-	1年	1	-
		学外奨学金	三井金型振興財団奨学金	給付	-	¥80,000/月	-	正規修業年限	1
外国人 留学生対象	学内奨学金	私費外国人留学生授業料減免奨学金	減額	-	50%	-	年1回	27	-
		渡日前入試予約採用奨学金	給付	-	¥500,000/年	-	最長2年	10	-
		小野梓記念外国人留学生奨学金	給付	-	¥400,000/年	-	1年	8	-
		早稲田大学緊急奨学金	給付	-	¥400,000/年		1年	0	0
	学外奨学金	国費留学生	給付	-	¥144,000～¥145,000/月+授業料		正規修業年限	6	0
		私費外国人留学生学習奨励費	給付	-	¥48,000/月		最長1年	35	0
		中国国家建設高水準大学留学生	給付	-	-	¥150,000/月+授業料	正規修業年限	-	1
		中国国家建設高水準大学公費派遣研究生受入制度 博士後期課程1年特別選考	給付	-	-	¥150,000/月+授業料	最長2年	-	1
		ロータリー米山記念奨学会	給付	-	¥140,000/月		1年	0	0
		北九州学術研究都市奨学金	給付	-	¥50,000/月		1年	13	0
関原大連市留学生奨学金	給付	-	¥20,000/月		1年	1	0		
規定なし	学内奨学金	大隈記念奨学金	給付	-	¥400,000/年	-	1年	2	-
		旭興産グループ奨学金	給付	-	¥500,000/年	-	1年	4	-
		大川功情報通信学術奨学金	給付	-	-	¥600,000/年	1年	0	2
		大川功記念特別優待賞	給付	-	-	¥600,000/年	1年	0	0
		博士後期課程研究者養成奨学金	給付	-	-	¥500,000/年	1年	-	30
	ヤングリーダー研究奨学金	給付	-	\$10,000/年		最長2年	0	0	
	研究奨励費等	早稲田オープン・イノベーション・エコシステム 挑戦的研究プログラム(W-SPRING)	給付	-	-	研究費 ¥500,000/年	正規修業年数	-	40
		早稲田次世代AIイノベーション・エコシステム 挑戦的研究プログラム(W-SPRING-AI)	給付	-	-	生活費相当額 および研究費 上限¥3,900,000/年	正規修業年数	-	4

(¥：日本円)  
(2025年12月現在)

## 奨学金受給モデルケース

### A 日本人修士課程学生 Aさんのケース

旭興産グループ奨学金 ￥500,000 /年×1  
日本学生支援機構第一種(貸与) ￥88,000 /月×12

年額 ￥1,556,000

### B 留学生修士課程学生 Bさんのケース

私費外国人留学生学習奨励費 ￥48,000 /月×12  
授業料減免

年額 ￥576,000  
および授業料減免

### C 留学生博士後期課程学生 Cさんのケース

博士後期課程 ￥500,000 /年  
研究者養成奨学金  
私費外国人留学生学習奨励費 ￥48,000 /月×12

年額 ￥1,076,000

## 大学院博士後期課程研究者養成奨学金制度

早稲田大学は、2009年度入学者より、大学院博士後期課程において高度の研究能力と豊かな学識を有する優秀な研究者を養成することを目的とした奨学金制度を設立しています。この奨学金は、授業料を免除されている学生を除く博士後期課程の標準修業年限内の在籍学生で、本奨学金の出願資格をすべて満たし、所定の出願書類を提出した者のうち適格者全員が年額50万円(単年度給付)を受給できる制度です。

※詳細等は入学手続時に配付する「Challenge奨学金情報」または奨学課ホームページにて確認してください。



奨学課

# キャンパスライフ・北九州学術研究都市



アクセス

## 北九州市は新しい研究生活のステージ

IPSがある北九州市は、九州では福岡市に次ぐ約90万人の人口を有する政令指定都市です。古くから「ものづくりの街」として発展し、世界的企業が本社を置くほか、鉄鋼、化学、自動車など多くの製造拠点が集積しています。近年は大手IT企業による拠点の設立も相次いでおり、大学との連携も進んでいます。市の中心部では商業や娯楽施設が集積する一方、海や山に囲まれた地形から、豊かな自然や新鮮な食材に恵まれた暮らしやすい都市です。また、首都圏に比べて経済的にも暮らしやすく、ゆとりある研究生活を送ることができます。

## IPSの位置する北九州学術研究都市

- 60を超える企業や研究機関が同一キャンパスに集積
- 最先端の“知”が集うアジアの中核的な学術研究拠点
- 地域企業との連携による技術の高度化と新産業の創出

**A ロボット・DX推進センター**  
地域企業のロボット導入、DX推進を支援する施設です。

**B 学術情報センター**  
(図書室・情報処理施設)  
情報を集積・発信するマルチメディアステーションです。

**C 産学連携センター**  
産・学が手を組んで研究をすすめる中核施設です。

**D 会議場**  
研究発表や産学官交流の場にふさわしいホールです。

**E 共同研究開発センター**  
半導体微細加工技術の研究開発を支援する施設です。

**F 情報技術高度化センター**  
ネットワークや半導体設計に関する研究開発、人材育成を行う共同研究開発施設です。

**1ヵ月あたりの生活費例**

家賃(留学生寮)	食費	約30,000円
約12,000~20,000円	電気・ガス・水道・通信費	約20,000円
家賃(民間アパート)	交遊費	約15,000円
約32,000~45,000円		
合計		約77,000~110,000円

**北九州学術研究都市**

北九州市

学費や奨学金に関するお問い合わせ

オフィス

gakumu-ips@list.waseda.jp



# Graduate School of Information, Production and Systems, Waseda University



## 早稲田大学 大学院情報生産システム研究科

〒808-0135 福岡県北九州市若松区ひびきの2-7

早稲田大学大学院情報生産システム研究科事務所

アドミッションズオフィス

✉ [koho-ips@list.waseda.jp](mailto:koho-ips@list.waseda.jp)

TEL.093-692-5017 FAX.093-692-5021

🌐 <https://www.waseda.jp/fsci/gips/>

